

2017年度第3四半期 決算電話説明会

2018年2月9日



イオンフィナンシャルサービス

東京証券取引所市場第一部
証券コード: 8570

連結業績の概要

(単位:億円)	上期		3Q		1-3Q累計	
	実績	前年同期比	実績	前年同期比	実績	前年同期比
経常収益	1,945	108%	1,021	109%	2,966	108%
経常費用	1,659	108%	859	109%	2,519	109%
経常利益	285	104%	162	109%	447	106%
債権流動化益	40	78%	25	110%	65	87%
債権流動化益の償却額 ※	29	-	14	-	44	-
親会社株主に帰属する当期純利益	171	101%	87	99%	259	100%

※債権流動化の累積残高に対する償却額

※()内は前年同期比。国内及び国際数値は、各事業に属するセグメント間取引の相殺消去後数値

【第3四半期累計業績】連結業績は6期連続で増収増益および、過去最高を更新。会社計画線で進捗

- 経常収益: 2,966億円 (108%、為替影響+39億円)
 - ・国内: ショッピング取扱高3兆6,919億円 (110%)。カード会員数拡大、ポイント効果が継続(ショッピング収益+81億円) キャッシングでは稼働口座数128万(期首比+5万口座)、1人当たり残高32.7万円(期首比+1.2万円) 10/1よりイオン銀行店舗を全店直営化(32→139店舗)し、資産形成サービスを強化
 - ・国際: 規制強化に対応したタイで、パーソナルローン取扱高が拡大(ローン収益+38億円)
- 経常利益: 447億円 (106%、為替影響+7億円)
 - ・国内: 1) 本社機能集約化、事業仕分け、審査・債権管理の業務効率化等の先行投資60億円を実施(P5参照)
2) カードショッピング取扱高の順調な拡大: ポイント費用+32億円
3) 貸倒費用+10億円、利息返還費用+4億円、開示請求件数は前年比で減少(△33.3%)
4) リスクアセットの削減、資本回転率の上昇、利回りの改善を目的として、3Qに住宅ローン債権の流動化を実施
 - ・国際: 審査・債権管理の体制強化によりコストを抑制、基盤構築から成長ステージへ移行
KPIである人件費/経常収益対比は15.0%(△0.3pt)、貸倒費用/経常収益は対比は24.4%(△2.6pt)
※貸倒費用は融資から物販へのシフトを継続したことにより220億円(+0%、為替影響+9億円)といずれも改善
- 親会社株主に帰属する当期純利益: 259億円 (100%)
 - ・前年度にイオン銀行の繰延税金資産区分を変更(費用減少)、税金費用+18億円、非支配株主利益+16億円

連結業容

	前年度末		上期		第3四半期	
	実績	前期比	実績	期首比	実績	期首比
① 連結有効会員数(万人)	3,894	+172	3,984	+90	4,025	+131
内、国内会員数(万人)	2,692	+104	2,739	+47	2,758	+66
② 国内稼働会員数(万人)	1,661	+68	1,687	+26	1,698	+37
③ イオン銀行口座数(万口座)	555	+62	580	+25	592	+37
内、セレクト会員数(万人)	408	+52	430	+22	438	+30
④ 連結営業債権残高(億円)	44,272	+5,695	48,066	+3,794	50,475	+6,202

① 連結有効会員数

- ・海外では、タイでのBig C提携カード募集施策が奏功し、新規会員獲得が好調に推移
- ・イオン店舗でのポイント2倍特典が一巡し定着

② 国内稼働会員数

- ・イオン店舗でのポイント付与率2倍で利用促進
- ・WEB明細会員:506万人(前年同期比+115万人、月間稼働率57%)
⇒約18億円の郵送料削減効果(※郵送時との比較)
- ・カードショッピング取扱高3兆6,919億円(前年同期比110%)

③ イオン銀行口座数

- ・セレクト会員に加えデビットカード会員が増加
- ・普通預金残高:1兆9,245億円(+4,796億円)

④ 連結営業債権残高(債権流動化含)

- ・国内:4兆5,074億円(+5,461億円)
※カードショッピング(+1,508億円)、住宅ローン(+1,272億円)、個品割賦(+784億円)
- ・国際:5,450億円(+741億円)
※割賦売掛金(+316億円)、貸出金(+424億円)

セグメント業績

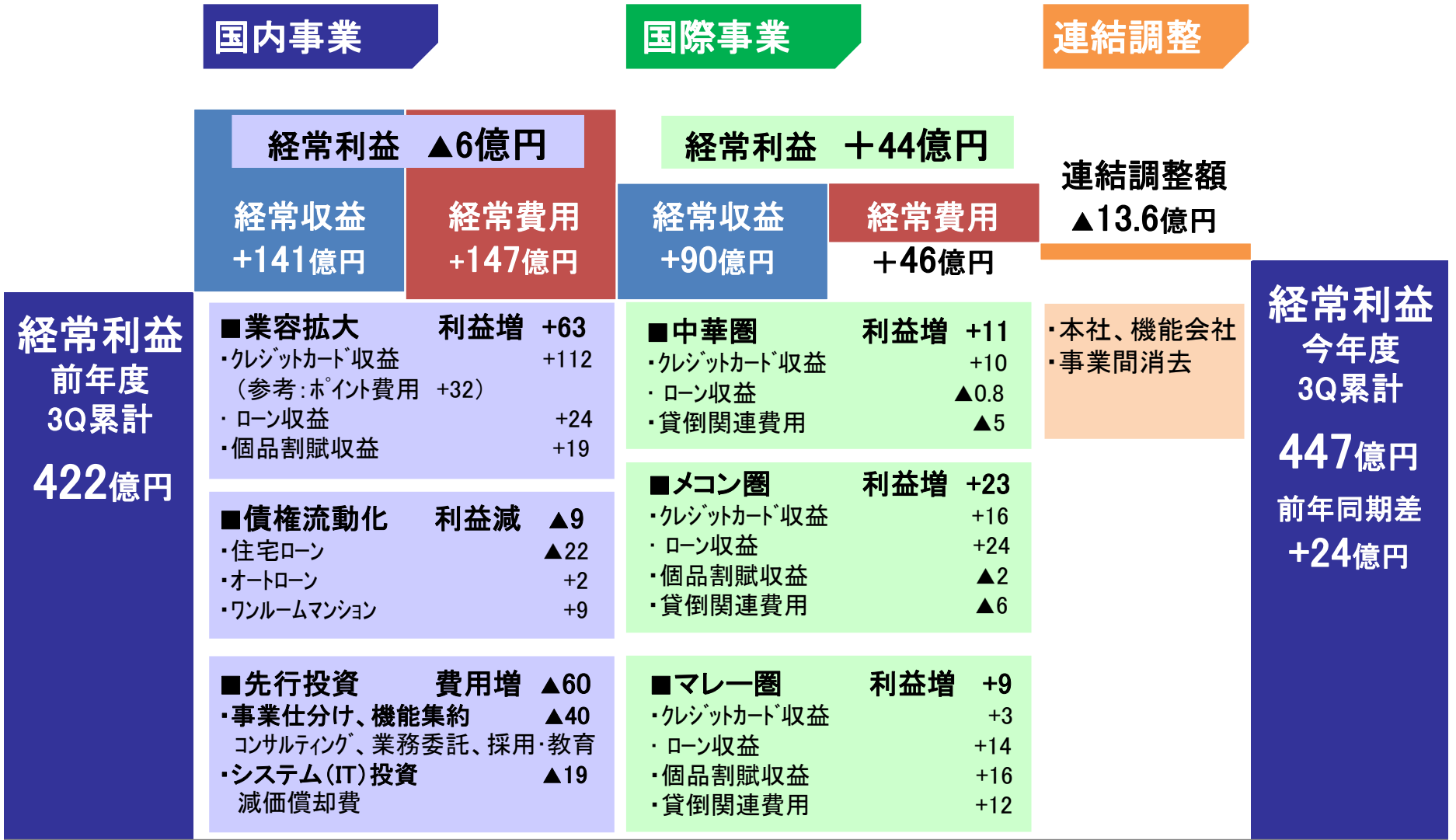
(単位:億円)	国内計			国際計			調整額	合計	
	※	リテール	ソリューション	※	中華圏	メコン圏			マレー圏
経常収益	2,055	1,314	1,263	903	144	461	296	△514	2,966
前年同期比	107%	106%	106%	111%	104%	111%	115%	102%	108%
増減	+141	+73	+68	+90	+5	+47	+38	△9	+221
経常利益	245	66	204	200	45	84	70	△24	447
前年同期比	98%	73%	99%	128%	133%	138%	116%	82%	106%
増減	△6	△24	△0	+44	+11	+23	+9	+5	+24
経常利益率	11.9%	5.1%	16.2%	22.2%	31.5%	18.4%	23.7%	-	15.1%
前年同期比	△1.2pt	△2.3pt	△1.0pt	+3.0pt	+6.9pt	+3.6pt	+0.3pt	-	△0.3pt

※ 国内計及び国際計は、各事業に属するセグメント間取引における相殺消去後の数値を記載

<p>①国内 主な増減要因 ※()内は前年同期差</p> <p>【リテール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資金運用収益+56億円:キャッシング+31億円 ・その他業務収益:住宅ローン債権流動化利益△23億円 ・役務取引等費用+34億円:債権残高拡大によるソリューションセグメントへの支払保証料+24億円 ・営業経費:広告費(主にポイント費用)+34億円 <p>【ソリューション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役務取引等収益:ショッピング+43億円、個品割賦+10億円 ・その他業務収益:流動化利益+11億円(外部売却+13億円、内部(イオン銀行)売却△2億円) ・役務取引等費用+27億円:コンサルティング費用等 ・営業経費:減価償却費+12億円、ポイント除く広告費△3億円 ・その他:貸倒関連費用+5億円、利息返還費用+4億円 	<p>②国際 主な増減要因 ※()内は前年同期差</p> <p>【中華圏:ACS(A)は現地通貨、円換算で増収増益】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ACS(A):イオンとの取組みにより、ショッピング取扱高が拡大 ・人件費/経常収益 : 14.8%(△1.6pt) ・貸倒関連費用/経常収益: 17.7%(△4.4pt) <p>【メコン圏:AEONTSは現地通貨、円換算で増収増益】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AEONTS:パーソナルローンの与信枠増対策による業績拡大 ・人件費/経常収益 : 14.7%(+0.6pt) ・貸倒関連費用/経常収益: 25.2%(△4.5pt) <p>【マレー圏:ACS(M)は現地通貨、円換算で増収増益】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ACS(M):バイク、自動車の個品割賦拡大 ・人件費/経常収益 : 15.6%(△1.1pt) ・貸倒関連費用/経常収益: 26.3%(+1.0pt)
---	--

エリア別業績グラフ

■国内の先行投資による負担増を海外の利益成長でカバー



※各事業の数値は、本社・機能会社除く、セグメント間消去後の数値

連結貸借対照表

連結(単位:億円)	1-3Q実績	期首比
現金預け金	5,611	+265
貸出金	2兆1,119	+2,470
割賦売掛金	1兆4,544	+2,722
貸倒引当金	△544	△41
その他	6,524	△33
資産合計	4兆7,255	+5,382
預金	2兆9,753	+4,332
有利子負債 (預金除く)	7,882	+292
利息返還損失引当金	22	△15
その他	5,336	+525
負債合計	4兆2,995	+5,135
純資産合計	4,259	+247
負債及び純資産合計	4兆7,255	+5,382
自己資本比率 (国内基準)	8.51%	△0.08pt

トピックス ※()内は期首比

- ・国内残高: 5,242億円(+191億円)
→カード取扱高の好調により増加

- ・国内残高: 1兆8,222億円(+2,045億円)
→無担保ローン: 5,245億円(+170億円)
内、キャッシング4,467億円(+150億円)
※流動化残高: 1兆0,361億円(+1,436億円)
※住宅ローン(流動化込): 1兆5,352億円(+1,272億円)
- ・国際残高: 2,946億円(+424億円)

- ・国内残高: 1兆2,039億円(+2,405億円)
※流動化残高: 3,206億円(△211億円)
→カードショッピング及び個品割賦が拡大
- ・国際残高: 2,504億円(+316億円)
→カードショッピング及び個品割賦が拡大

- ・普通預金: 1兆9,245億円(+4,796億円)
- ・定期預金: 1兆0,586億円(△385億円)

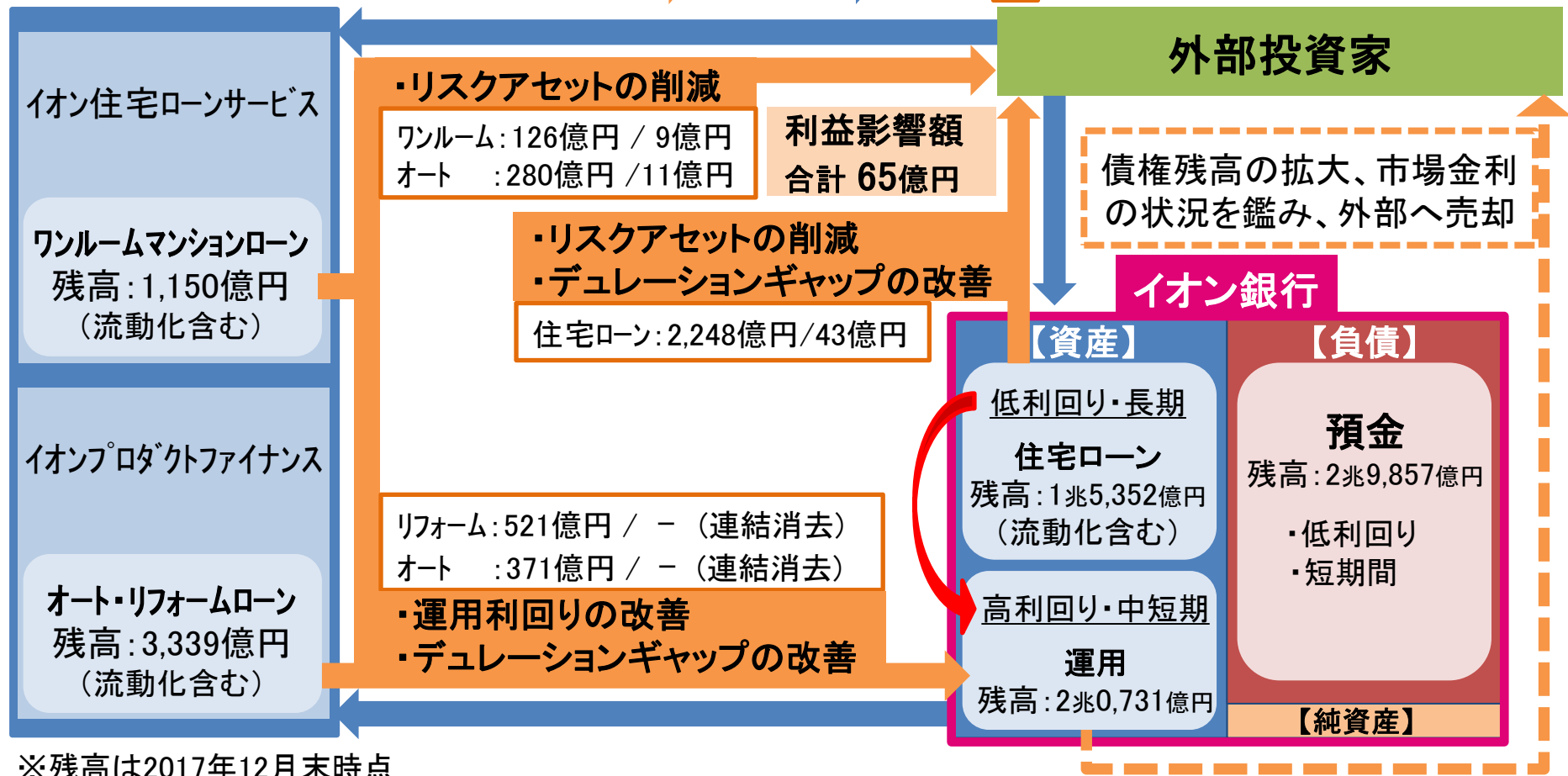
- ・国内残高: 3,671億円(△21億円)
→長期借入金: 289億円(+53億円)
預金へのシフトを継続実施
- ・国際残高: 4,210億円(+314億円)

- ・リスクアセットの増加を抑制

資産収益性の改善 ～債権流動化による資本効率化～

- 債権流動化での調達により、利回り・デュレーションギャップの改善、リスクアセットを削減
- 低利調達が可能なイオン銀行のB/Sを活用、債権残高や金利環境を鑑み、外部へ売却
- 3Qまでのリスクアセット削減効果は約1,500億円、リスクアセット増加額は1,800億円
4Qにリスクアセット削減の取り組みを実施予定

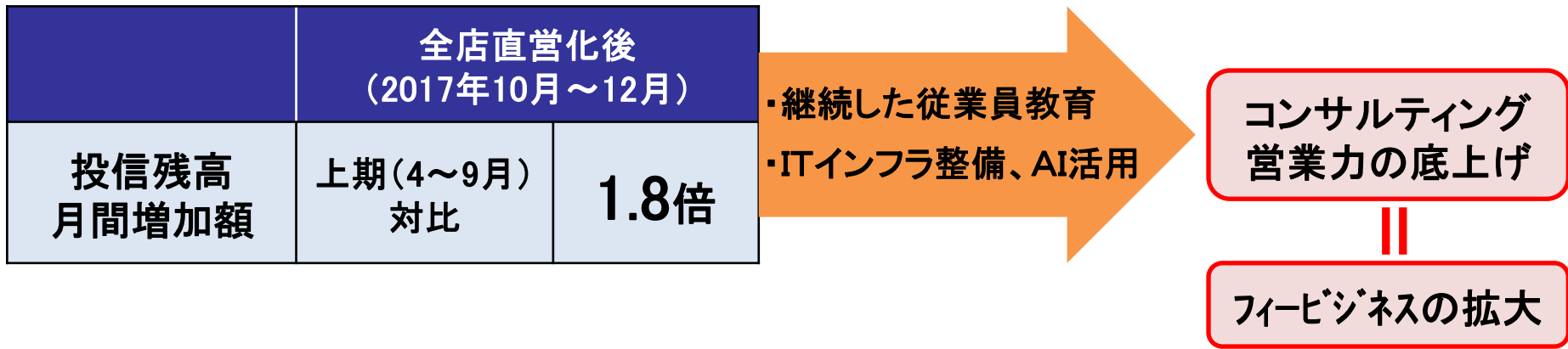
【3Qまでの債権流動化の流れ】 ※ は流動化、 は調達、 内は「流動化実施額 / 利益影響額」



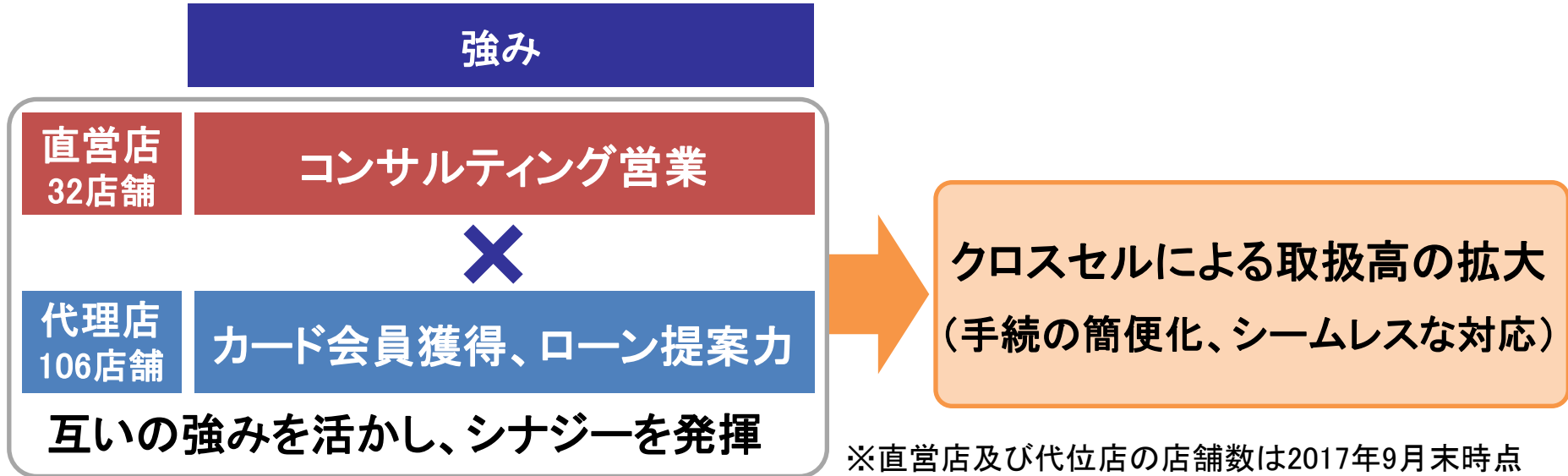
※残高は2017年12月末時点

銀行店舗の全店直営化における状況

■ 直営化により、投信残高の積み上がりペースが上昇

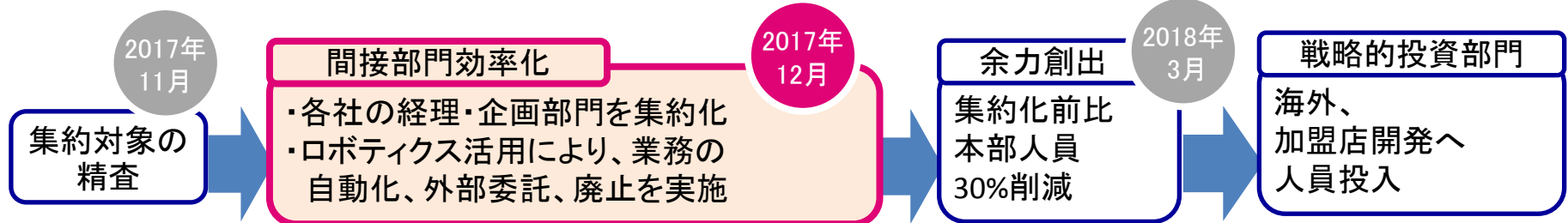


■ 直営店及び代理店が持つ強みの融合により、クロスセル展開を強化



本社機能集約化と効率化の取組み

■ 本社機能(国内)の集約化スケジュール



■ AFS本社機能(国内)の集約化と効率化の取組み

● AFS内の1社に機能を集約

- 各社(国内9社)に存在する機能(経理・人事・総務・法務等)を1社に集約
- 業務の自動化、外部委託を推進

AFS

ACS ABK AIS AHLS APF 等

機能 経理 人事 総務 法務 等

● 効率化の取組み(事例紹介)

・現状の経理業務

- ①起票
- ②承認
- ③支払
- ④登録

4段階を4人で処理

・自動化:ロボティクス導入後

- ①起票
- ②承認
- ③支払
- ④登録

4段階を1人で処理

3段階を自動化

利便性・生産性向上の取組み(国内)

■ IT・デジタル化を通じた、利便性・生産性の向上を目的とした取組み

効果	施策	イメージ
いつでも気軽に 問い合わせ	<ul style="list-style-type: none"> ・AI自動チャットサービス ・Pepperによるイオンカード受付 ・AIを活用したコンシェルジュ業務 	
手続きの簡素化 所要時間短縮	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅ローン手続きのペーパーレス化 	
安全性強化	<ul style="list-style-type: none"> ・「指紋＋静脈」認証による銀行取引 	
快適性配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・IT・デジタル技術を活用した新店舗 ・セミオープンブース 	
One to One サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・ACMC 「音声認識技術」 「テキストマイニングツール」 ・ACMC AIを活用した債権回収 	

「簡単・便利・おトク」な生活インフラを提供

国際事業の主な取組み(下期)

メコン圏

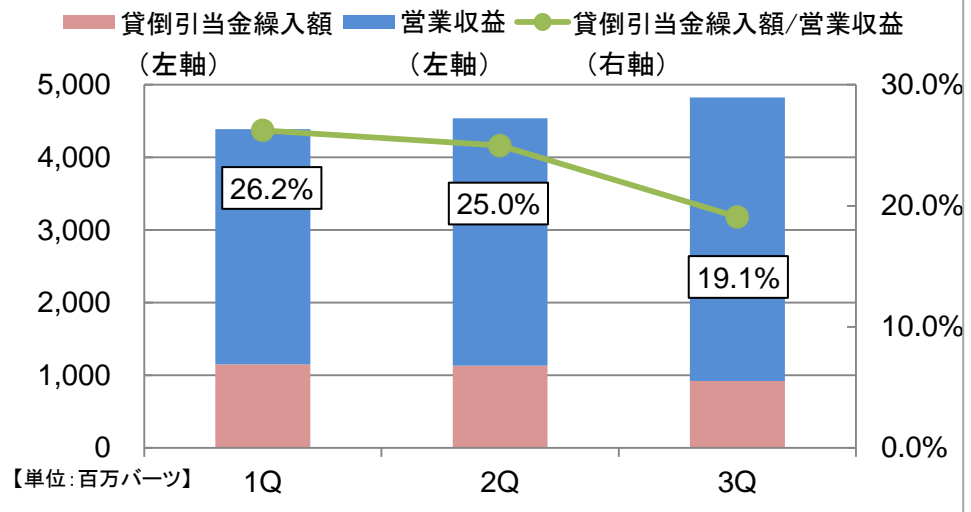
- タイ
 - ・貸倒関連費用の最適化
 - ・与信枠拡大顧客に対するモニタリングの強化
 - ・回収業務の円滑化、回収コスト削減のため、本社とサービサー会社を一本化
 - ・ビッグCカードの募集・取扱高拡大
 - ・オートローン事業開始
 - ・モバイルアプリへ支払機能追加

- カンボジア
 - ・IoTを活用したオートローン事業開始
 - 契約件数 26件
 - 貸倒件数 0件
 - (2017年12月末)

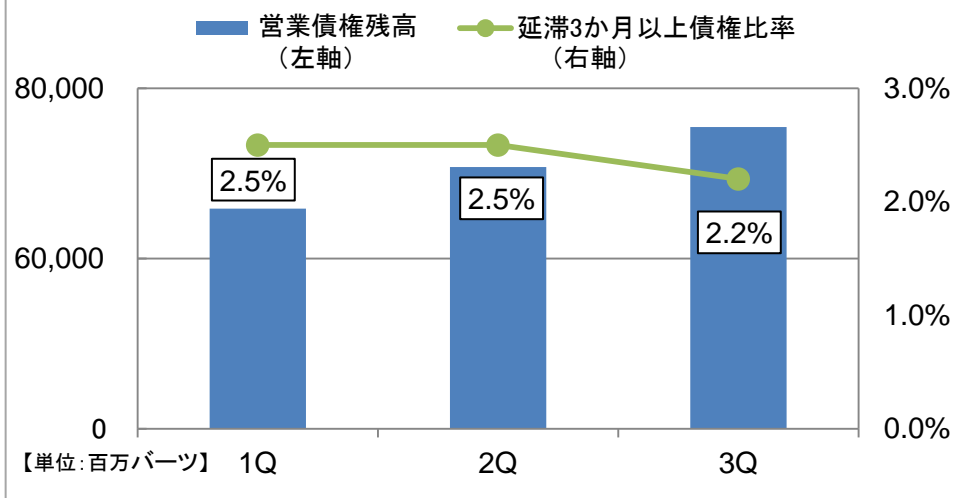


- ・モバイル決済 (電子マネー) 推進

イオンタナシンサップ 貸倒関連費用の推移



イオンタナシンサップ 営業債権残高推移



国際事業の主な取組み(下期)

中華圏

- 香港
 - ・カード債権の拡大により、増収増益
 - ・「ONE PIECE Mastercard」の発行
- 中国
 - ・マイクロファイナンス3社のバックオフィス集約化による採算性改善

マレー圏

- マレーシア
 - ・融資から物販へのシフトを加速
 - ・ペーパーレス・キャッシュレス店舗開設
 - ・所得拡大による将来のアンバンク層減少に対応し、商品ラインナップを拡充
 - ・ポイント一体型電子マネーの推進
- フィリピン
 - ・IoTを活用したオートローン事業強化
 - 契約件数 423件
 - 貸倒件数 0件 (2017年12月末)

イオンクレジットサービスアジア 今年度 前年同期比の推移

	1Q	2Q	3Q
経常収益	99%	98%	106%
経常利益	123%	105%	134%

イオンクレジットサービスマレーシア 今年度 実績の推移 単位:百万リンギット

	1Q	2Q	3Q
営業債権残高	6,778	6,990	7,143
パーソナルローン	1,730	1,827	1,883



フィリピン7月開始



2017年度 連結業績予想

- 国内:カードショッピング取扱高拡大の継続および機能集約等による生産性の改善を図る
- 国際:新規事業によるトップラインの拡大および貸倒費用等のコストコントロールに努める

	2017年度通期	
	業績予想	前期比
経常収益	3,900億円	104.0%
経常利益	650億円	105.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益 (1株当たり当期純利益)	400億円 (185円43銭)	101.4%

	第2四半期末		期末		年間		配当性向	
	実績	前期比	予想	前期比	予想	前期比	予想	前期比
配当予想	29円	±0円	39円	±0円	68円	±0円	36.7%	+0.9%

・前年度の記念配当2円を普通配当に置き換え

(参考) 2017年度3Q累計業績(香港、タイ、マレーシア)



		FY2016_1-3Q		FY2017_1-3Q	
		実績	前年同期比	実績	前年同期比
AEON CREDIT SERVICE (ASIA) (HK\$' 000)	Total Revenue (※2)	960,274	97%	994,194	104%
	Profit before tax	275,650	125%	331,712	120%
	Profit for the period attributable to : Owners of the Company	226,007	126%	274,018	121%
AEON THANA SINSAP (THAILAND) (BAHT' 000)	Total Revenues	13,139,799	99%	13,606,646	104%
	Profit before income tax expense	1,978,952	87%	2,547,198	129%
	Net profit for the period	1,579,250	87%	2,053,851	130%
AEON CREDIT SERVICE (M) Berhad (RM\$' 000)	Revenue + Other operation income	892,115	115%	1,013,616	114%
	Profit before taxation	248,098	118%	292,969	118%
	Profit for the period	184,974	116%	217,749	118%

※1 各社発表資料より抜粋。香港とタイは連結の数値を表示。

※2 Total Revenue = Interest income + Other operating income + Recoveries of advances and receivables written-off

(参考)2017年度1-3Q業績(香港、タイ、マレーシア)

■ イオンクレジットサービス(アジア)連結業績

	2016年度1-3Q	2017年度1-3Q	
	実績	実績	前年同期比
経常収益	133億円	142億円	107%
経常利益	38億円	47億円	124%
当期純利益	31億円	39億円	125%

為替レート:1香港ドル
 ・2016年度3Q:13.89円
 ・2017年度3Q:14.34円

決算期
 ・2016年:3/1~11/30
 ・2017年:3/1~11/30

■ イオンタナシナップ(タイランド)連結業績

	2016年度1-3Q	2017年度1-3Q	
	実績	実績	前年同期比
経常収益	402億円	450億円	112%
経常利益	60億円	84億円	139%
当期純利益	48億円	67億円	141%

為替レート:1バーツ
 ・2016年度3Q:3.06円
 ・2017年度3Q:3.31円

決算期
 ・2016年:3/1~11/30
 ・2017年:3/1~11/30

■ イオンクレジットサービス(マレーシア)業績

	2016年度1-3Q	2017年度1-3Q	
	実績	実績	前年同期比
経常収益	234億円	264億円	113%
経常利益	65億円	76億円	117%
当期純利益	48億円	56億円	117%

為替レート:1リンギット
 ・2016年度3Q:26.28円
 ・2017年度3Q:26.09円

決算期
 ・2016年:3/1~11/30
 ・2017年:3/1~11/30

(参考)セグメント別貸倒及び国内利息返還損失引当金の推移

■ 貸倒引当金残高(セグメント別)

	リテール	ソリューション	国内計
期首貸倒引当金残高	18億円	343億円	355億円
貸倒関連費用 (引当金繰入・損失)	5億円	136億円	141億円
貸倒償却額 (移管債権等含む)	0億円	112億円	113億円
期末貸倒引当金残高	22億円	367億円	383億円

(国内子会社) イオンクレジットサービス:303億円、イオン銀行:23億円、
イオンプロダクトファイナンス:46億円、イオン住宅ローンサービス:16億円

■ 利息返還損失引当金の状況

	2016年度 1-3Q	2017年度 1-3Q
期首残高	42億円	38億円
繰入額	7億円	12億円
利息返還額	32億円	27億円
期末残高	17億円	22億円

(利息返還額: キャッシュアウト + 元本充当)

	中華圏	メコン圏	マレー圏	国際計	連結
期首貸倒引当金残高	17億円	84億円	43億円	145億円	503億円
貸倒関連費用 (引当金繰入・損失)	25億円	116億円	78億円	220億円	362億円
貸倒償却額 (移管債権等含む)	28億円	109億円	69億円	208億円	321億円
期末貸倒引当金残高	14億円	91億円	52億円	157億円	544億円

(参考)2017年度業容計画(国内)

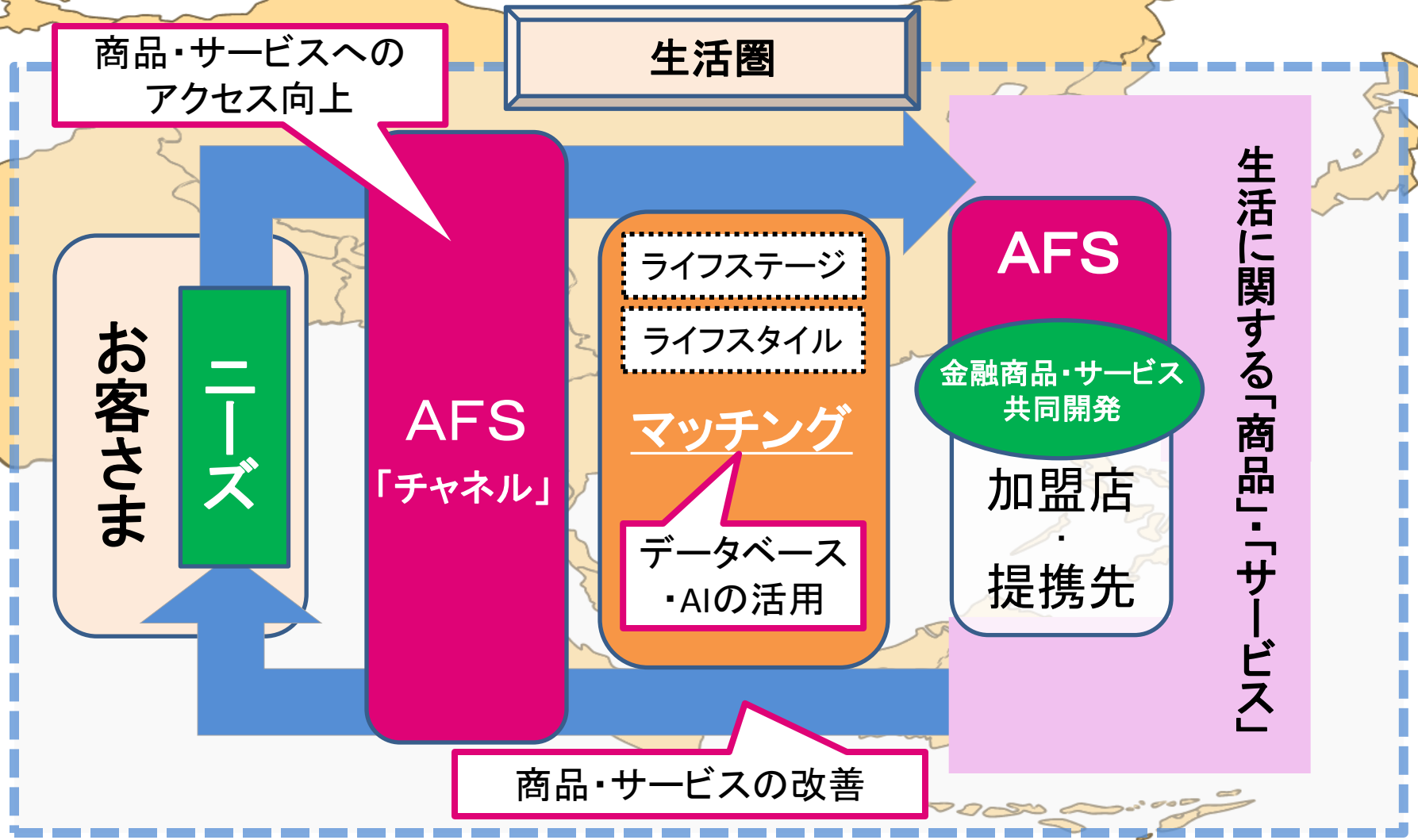
	2017年度3Q		2017年度	
	実績	前年同期比	計画	前期比
有効会員数	2,758万人	+66万人	2,800万人	+108万人

	実績	前年同期比	計画	前期比
カードショッピング取扱高	3兆6,919億円	110.0%	5兆0,000億円	110.7%

	実績	期首比	計画	前期比
キャッシング残高	4,467億円	+150億円	4,600億円	+283億円
小口ローン残高	777億円	+19億円	900億円	+141億円
無担保ローン残高	5,245億円	+170億円	5,500億円	+424億円

(参考) 目指すべき姿 「アジアNO.1のリテール金融サービス会社」

- 最新のIT技術を活用した金融商品・サービスへのアクセス改善により利便性を向上
- 従来の金融機関が十分なサービスを提供できていないお客さまへのアプローチを強化
- お客さまの、金融をはじめとした生活に関するさまざまなニーズとのマッチングを図る



(参考)各種セグメント業績数値における調整額の定義

有価証券報告書・四半期報告書・決算短信

リテール	ソリューション	中華圏	メコン圏	マレー圏	調整額	合計
------	---------	-----	------	------	-----	----

対象: 本社・機能会社、各事業セグメント間の取引

決算補足資料(FACT BOOK)

《事業セグメントの状況》 P6(当第3四半期の場合)

国内			国際			調整額	連結
計	リテール	ソリューション	計	中華圏	メコン圏		マレー圏

リテール、ソリューション間の調整後数値

中華圏、メコン圏、マレー圏間の調整後数値

対象: 本社・機能会社、各事業セグメント間の取引

《国内決算報告》 P7-11(当第3四半期の場合)

国内
国内事業会社

国内事業会社及びAFS間の調整後数値。
ただし、海外連結子会社からの配当金等は消去してありません。

本資料のうち、当社の将来的な経営戦略や営業方針、業績予測等にかかわるものは、いずれも現時点において当社が把握している情報に基づいて想定、算出されたものであり、経済動向、業界での競争、市場需要、為替レート、税制や諸制度等に関わるリスクをはじめとする様々な不確定要素を含んでおります。従って、将来、実際に公表される業績等はこれらの種々の要素によって変動する可能性があります。



イオンフィナンシャルサービス